

インドセタカガメ (*Kachuga tecta*) とハミルトンガメ (*Geoclemys hamiltonii*) の 温度依存型性決定 (TSD) について

大滝 侑介
(横浜市立野毛山動物園)

爬虫類の多くの性決定には孵卵中の温度により、決定する温度依存型性決定 (以下 TSD) であることは古くから知られている。

野毛山動物園で飼育するハミルトンガメやインドセタカガメでは、TSD の報告が確認できなかったため、今までの当園での繁殖個体および孵卵温度のデーターを用いて、TSD について調査を行った。

調査に用いた孵卵温度データーは雌親が土中に産卵した卵を掘り起したのち、サーモスタッドによる温度管理で人工孵卵したものを人工孵卵中は毎日孵卵温度を計測し、孵化した個体の孵卵日数の中期にあたる時期の平均孵卵温度を用いた。性別の確認は、死亡時の剖検および性成熟したのち、総排泄孔の位置で雌雄判別を行ったものを使用した。

今回用いたデーター数では、ハミルトンガメとインドセタカガメの TSD の明確な解明はできなかったため、今までとは異なる孵卵温度帯を用いて孵卵を行い、引き続き TSD の調査を行っていききたい。